

# 平成4年の病害虫の発生と防除

## 農林水産省農蚕園芸局植物防疫課

### I 気象経過の概要と農作物被害

冬期間は6年続きの暖冬。

1月は全国的に高温で、北海道の東部を除き北日本及び日本海側は全般に、降雪量、最深積雪ともに平年よりかなり少なかった。2月は北・東日本で高温。3月は菜種梅雨が顕著で、記録的な高温・多雨・日照不足だった。特に後半は曇りや雨(雪)の日が続き、日照時間は平年の20~50%しかなかった。桜の開花は平年より一週間前後早かったが、春一番は吹かなかった(2月末に九州北部・石川県では観測した)。

4月は東・西日本で菜種梅雨が上旬まで続いた。上・下旬高温、中旬低温。5月はほぼ全国的に低温。中旬には「梅雨の走り」。6月は前月下旬以来の北日本の低温・日照不足が中旬一杯続いた。7月は東・西日本では中旬まで低温で、梅雨前線の影響で曇りや雨の日が多く、下旬からは晴れて暑い日が続いた。北日本では、上旬は晴れて気温の高い日が多く、中旬には北からの冷たい高気圧の影響で低温。降水量は少ない。8月は北日本低温、特に九州では低温、多雨、日照不足が顕著。東日本では

厳しい残暑。台風第9, 10, 11号が西日本に上陸。9月は少雨と多照が著しい。台風の上陸もなく、まとまった雨は少なかった(1984年以来の不活発秋雨)。北海道では低温・多雨・日照不足。

入出梅は、奄美地方と九州南部地方の梅雨明けが平年より7~11日遅れた以外は入り・明けともほぼ平年並み。今年の梅雨は前線が南下しながら弱まる形で明けたため、西日本の梅雨明けが東日本よりも1~2日遅くなった。梅雨期間中の降水量は奄美、九州南部及び関東地方で平年以上であった他は全国的に少なくなった。

主な農産物被害は、3月上旬から4月上旬にかけての長雨、5月下旬の降ひょう、7月下旬から9月中旬にかけての干害、6月から9月にかけての低温、日照不足、台風3, 10, 11号等によるものがあつた。

10月15日現在の水稻の作柄は、北陸、関東・東山、東海、近畿、中国及び九州は「やや良」、東北及び四国は「平年並み」、北海道は「著しい不良」で、全国平均では作況指数101の「平年並み」、10a当たり収量は505kgが見込まれている。

表-1 平成4年梅雨の状況

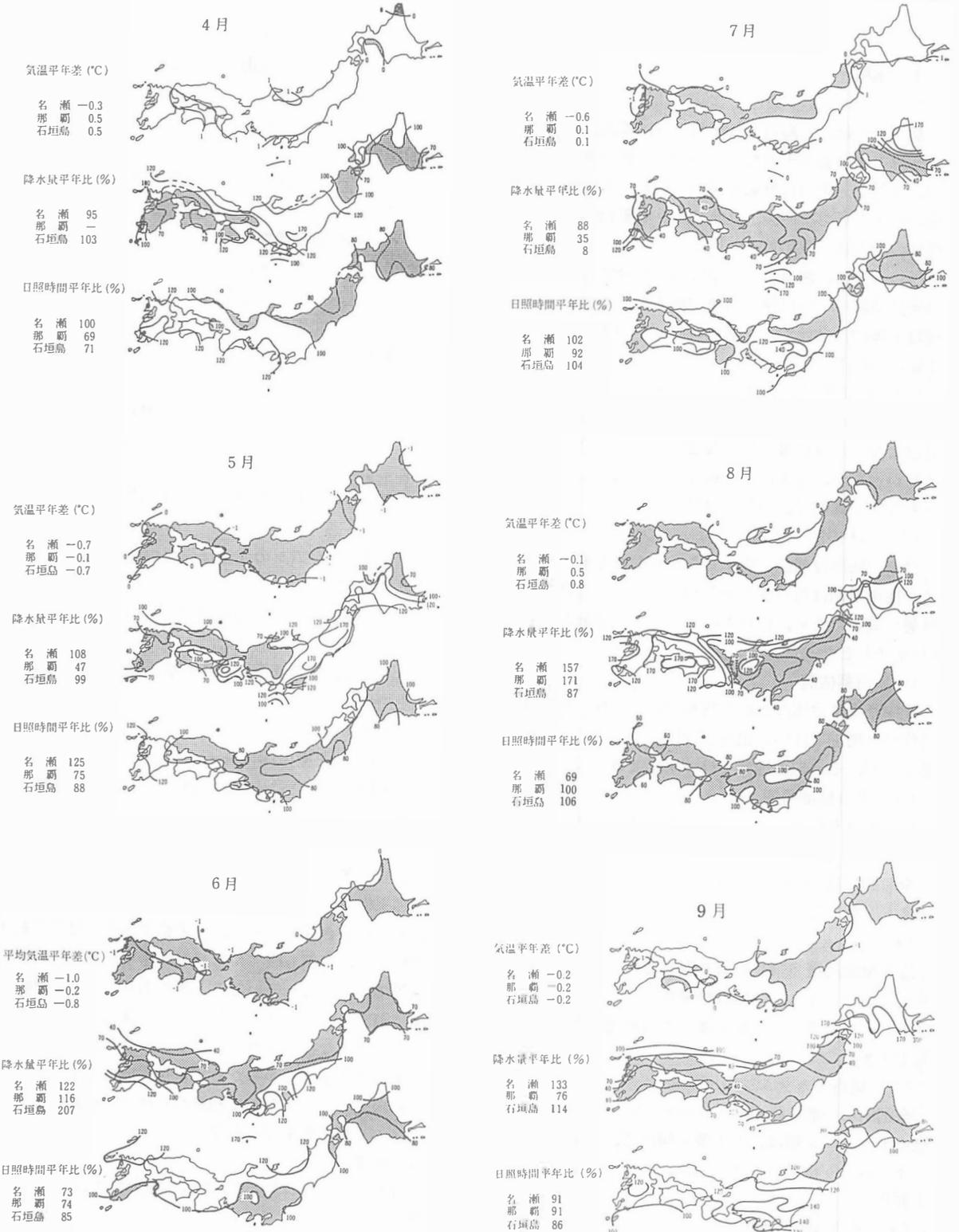
地域	梅雨入り				梅雨明け				降水 (mm)					過去の明けの遅い記録
	平年	本年	差	(昨年)	平年	本年	差	(昨年)	平年	本年	平年比	少雨記録	多雨記録	
沖 縄	5月11日	5月8日	3日早	5月6日	6月23日	6月26日	3日遅	6月26日	487.2	329.5	68%	35.5(S.38)	1240.5(S.50)	S.51.7.9
奄 美	5月11日	5月8日	3日早	5月6日	6月28日	7月9日	11日遅	6月26日	687.7	1031.5	150%	134.0(S.46)	1492.5(S.58)	S.58.7.15
九州南部	6月2日	6月5日	3日遅	5月19日	7月13日	7月20日	7日遅	7月9日	637.1	955.5	150%	248.0(S.46)	1730.3(S.29)	S.32.8.4
九州北部	6月8日	6月5日	3日早	5月19日	7月18日	7月20日	2日遅	7月19日	451.3	254.5	56%	161.5(S.62)	1379.0(S.28)	S.29.8.1
四 国	6月6日	6月7日	1日遅	5月19日	7月16日	7月21日	4日遅	7月19日	268.6	198.0	74%	87.0(S.48)	538.1(S.27)	S.29.8.2
中 国	6月8日	6月7日	1日早	5月25日	7月19日	7月21日	2日遅	7月21日	486.6	283.5	58%	142.5(S.43)	899.3(S.28)	S.29.8.2
近 畿	6月8日	6月7日	1日早	5月26日	7月19日	7月21日	2日遅	7月21日	335.8	247.0	74%	77.6(S.33)	726.6(S.32)	S.63.7.31
東 海	6月9日	6月7日	2日早	5月31日	7月18日	7月19日	1日遅	7月21日	361.1	287.0	79%	74.8(S.33)	695.4(S.27)	S.29.8.2
関東甲信	6月9日	6月7日	2日早	5月31日	7月20日	7月19日	1日早	7月23日	267.5	348.5	130%	67.9(S.35)	540.1(S.41)	S.57.8.4
北 陸	6月12日	6月7日	5日早	6月10日	7月22日	7月19日	3日早	8月14日	268.6	199.0	74%	73.0(S.43)	514.0(H.3)	H.3.8.14
東北部	6月12日	6月8日	4日早	6月10日	7月23日	7月24日	1日遅	7月27日	244.2	238.0	97%	89.0(S.48)	477.4(S.29)	S.62.8.9
東北部	6月14日	6月8日	6日早	6月10日	7月26日	7月29日	3日遅	8月14日	159.5	125.0	78%	20.0(S.44)	371.0(H.3)	H.3.8.14

※降水量の記録は、那覇、名瀬、鹿児島、福岡、高松、広島、大阪、名古屋、東京、新潟、仙台、青森の値

※梅雨入り・明けの階級区分

・平年並：平年日±3日以内の場合

・平年より早(遅)い：平年日より4日以上早(遅)い場合



月別・要素別気象経過 (気象庁気候系監視報告より)

## II 病害虫の発生の概要

### 1 水稲

#### (1) いもち病

葉いもち病は、北海道では7月上旬の高温、7月下旬から8月上旬の曇雨天のため「やや多」。西日本では6月下旬、7月上、中旬に感染好適日が現れ一部地域で発生面積の拡大を見た。四国、九州で「やや多」から「多」、その他の地方は「平年並み」以下。

穂いもち病は、西日本の中山間等の常発地帯や葉いもちの多発地域を中心に発生面積が拡大したものの、発病程度は全体的には低く、一部地域で「やや多」の他は「平年並み」以下。

いもち病は昨年、近年になく多発したことから初期防除の徹底が図られた。今年の天気は気温の変動が激しく、低温となった後猛暑となるなどいもち病の発病には好適でなかったが、たまたま好適な天候と結びついた地域でいもち病が面的な広がりを見せた。

#### (2) 紋枯病

今年の梅雨は前線が南下しながら弱まる形で明けたため、梅雨末期は西日本で天気がぐずつき、出穂期以降は残暑が続いたため、西日本の一部で上位進展が見られ、「やや多」となった。

#### (3) 白葉枯病

集中豪雨や台風などの影響を受けた地域、感受性品種の作付け増加に伴い近畿及び中国の一部で「やや多」であったが、その他の地域では「平年並み」以下。

#### (4) もみ枯細菌病

一部地域を除き「やや少」から「少」であった。

#### (5) ばか苗病

全般的には「やや少」であったが、西日本の一部で「やや多」となった。

#### (6) ウンカ病

近年早期反復多飛来を繰り返していたセジロウンカ、トビイロウンカは、今年は飛来数としては「平年並み」以下。セジロウンカは飛来後の本田増殖により中国の一部で「多」。

#### (7) 斑点米カメムシ類

全国的に一部を除いて「やや多」から「多」となった。斑点米カメムシ類は、近年多発傾向で、オオトゲシラホシカメムシ、ホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ等が主要種。

#### (8) その他の病害虫

黄化萎縮病の発生は「やや少」から「少」。ただし一部の地域で冠水により「多」となった。

ニカメイガの発生が一部地域で「やや多」となった。ニカメイガは防除を省略している地域やイネワラを果樹や野菜のシキワラ等に利用している特定の地域で増加傾向にある。

ツマグロヨコバイの発生が東北、北陸及び九州の一部で「やや多」から「多」となった。

イネミズゾウムシの発生は北海道、東北及び九州の一部で「やや多」で、発生面積が拡大した。

### 2 イネ以外の普通作

麦類の赤かび病の発生は「少」。

大豆のカメムシ類の発生が西日本の一部で、ウコンノメイガの発生が北陸で「やや多」となった。

### 3 果樹

#### (1) かんきつ類

かいよう病、黒点病、そうか病が近畿以西の各地で「やや多」となった。特にかいよう病の発生は中国及び九州の一部で「多」。

アブラムシ類の発生が近畿以西の一部で「やや多」から「多」。

ヤノネカイガラムシの発生は少なかった。

#### (2) りんご

モニリア病の発生は北海道及び東北の一部で「やや多」。

斑点落葉病、黒星病及び腐らん病の発生は東北の一部で「やや多」。

ハマキムシ類等の発生は「平年並み」以下。

#### (3) その他果樹の病害虫

ナシ黒斑病の発生は中国の一部で「多」、北陸及び東海の一部で「やや多」。

なしのハダニ類、アブラムシ類の発生が各地で「やや多」から「多」。

各種果樹のカメムシ類の発生が「多」。かんきつ類、なし、もも、かき等で多発した。果樹カメムシはここ数年多発傾向で、本年も暖冬により越冬密度が高く、昨年の台風等で山林が荒れていること等もあり、ごく早期から園地に飛来した。近畿の一部ではうめ園に5月以降異常飛来し、大きな被害をだした。また、今年は杉、檜のきゅう果の結実が少なかったため新世代成虫も果樹園に早期から飛来し、結果として初夏から秋まで長期にわたってカメムシ類の飛来侵入を受けた。

### 4 野菜

各種野菜のハダニ類、アブラムシ類の発生は一部で「やや多」。

はくさい、キャベツのコナガの発生が一部地域で「やや多」。

## 病害虫別発生・防除状況 (平成4年10月1日現在)

(単位:千ha, %)

病害虫名	概 評	発生面積 (前年比)	延べ防除面積 (前年比)	備 考
(イネ)				
葉いもち	北海道, 四国, 九州でやや多〜多, その他は平年並以下	455(54)	1,913(96)	昨年の多発で初期防除徹底
穂いもち	西日本の一部でやや多の他は平年並以下	343(66)	2,642(84)	中山間の常発地等を中心に発生
紋枯病	西日本の一部でやや多	897(104)	1,773(99)	梅雨末期や夏期の局地的な曇雨天, 出穂期以降の残暑 浸冠水, 感受性品種の作付増
白葉枯病	近畿, 中国の一部でやや多	28(80)	21(91)	
縞葉枯病	やや少〜少	109(77)	—	
ばか苗病	やや少, 西日本の一部でやや多	97(94)	1,638(97)	種子消毒の不徹底等
もみ枯細菌病	一部を除きやや少〜少	83(64)	97(107)	
稲こうじ病	東北, 九州の一部でやや多の他平年並以下	113(74)	47(94)	
ニカメイガ	一部地域でやや多	343(108)	927(94)	シキワラ利用の増等
セジロウンカ	中国の一部で多の他は平年並以下	950(71)	1,480(78)	飛来数少
トビロウンカ	やや少〜少	230(51)	1,177(83)	飛来数少
ヒメトビウンカ	平年並	702(98)	1,273(86)	
ツマグロヨコバイ	東北, 北陸, 九州の一部でやや多〜多	975(106)	1,271(92)	
イネドロオイムシ	平年並以下	244(75)	745(97)	
斑点米カメムシ類	やや多〜多	292(75)	1,316(94)	近年多発傾向, 暖冬, 雑草地の増
コブノメイガ	少	318(58)	414(73)	
イネミズゾウムシ	関東, 東海, 近畿, 中国で平年並, その他の一部でやや多	1,350(94)	1,023(90)	
(ムギ類)				
さび病類	やや少〜少	31(66)	69(64)	
うどんこ病	やや少〜少	91(82)	205(106)	
赤かび病	一部を除いて少	73(58)	264(111)	
雪腐病	少	49(107)	97(101)	暖冬少雪
雲形病	北陸でやや多〜多	5(71)	2(50)	
オオムギ縞萎縮病 (ジャガイモ)	一部地域でやや多の他は平年並以下	10(100)	—	
疫病 (ダイズ)	一部地域でやや多の他は平年並以下	43(90)	388(89)	
紫斑病	やや少〜少	4(80)	48(71)	
ハスモンヨトウ	平年並以下	26(60)	62(78)	
ハダニ類	平年並以下	21(105)	6(60)	
カメムシ類	平年並〜やや多	29(103)	84(78)	
アブラムシ類 (サトウキビ)	平年並	44(90)	71(83)	
黒穂病	平年並	4(67)	4(80)	
カンシャコバネナガ カメムシ	やや少	36(95)	54(95)	
アオドウガネ	平年並	11(92)	21(100)	
カンシャクシコメツ キ	平年並	15(94)	23(96)	
(カンキツ類)				
そうか病	一部地域を除きやや多〜多	21(88)	94(93)	
黒点病	一部地域を除きやや多〜多	72(73)	313(96)	
かいよう病	中国, 九州で多, その他は一部を除きやや多	27(129)	71(115)	春先の多発, 昨秋の台風の影響
ヤノネカイガラムシ	少	7(78)	103(94)	
ミカンハダニ (リンゴ)	一部地域を除き平年並〜やや少	75(89)	305(100)	
腐らん病	平年並	9(90)	72(90)	

病虫害名	概 評	発生面積 (前年比)	延べ防除面積 (前年比)	備 考
モニリア病	平年並以下, 北海道, 東北の一部でやや多	10(500)	71(108)	昨年のごく少発生
斑点落葉病	やや少, 東北の一部でやや多	22( 73)	392( 93)	
黒星病	平年並以下	6(120)	313( 94)	
キンモンホソガ	平年並以下	12( 71)	140(100)	
ハマキムシ類	平年並以下	5(100)	222( 97)	
ハダニ類 (ナシ)	一部地域でやや多の他平年並	13( 68)	141( 86)	
黒斑病	中国の一部で多, 北陸, 東北の一部でやや多	4(100)	95( 96)	
黒星病	やや少～少	5(100)	141(102)	
ナシヒメシンクイ	一部地域を除き平年並以下	1(100)	47(121)	
ハダニ類	一部地域でやや多～多	7(117)	45( 96)	
アブラムシ類 (モモ)	一部地域でやや多～多	10(111)	52(102)	
せん孔細菌病	一部地域でやや多	3(100)	24(104)	近年多発傾向
灰星病 (ブドウ)	平年並以下	2(150)	49( 94)	
晩腐病	やや少～少	2( 50)	59( 92)	
べと病	一部地域でやや多の他は平年並以下	6( 75)	70( 83)	
灰色かび病 (カキ)	平年並	2( 50)	34( 97)	
うどんこ病	一部地域でやや多の他は平年並	10(100)	55(106)	
落葉病類	平年並以下	5( 71)	51( 96)	
カキクダアザミウマ (パイナップル)	東北, 関東, 北陸, 四国の一部でやや多	4( 80)	21(105)	
パイナップルコナカイガラムシ (果樹共通)	平年並	1(100)	2(100)	
カメムシ類 <sup>1)</sup> (チャ)	北日本を除き多	23( 73)	108( 92)	
炭そ病	一部地域でやや多	24( 89)	105(112)	
チャノココクモンハマキ	平年並以下	14( 82)	78(118)	
カンザワハダニ (キュウリ)	平年並	35(140)	136(156)	
べと病	四国, 九州でやや多の他は平年並	9(100)	60( 90)	
うどんこ病	一部地域でやや多～多	8(100)	49(102)	
斑点細菌病	やや少～少	2( 67)	29( 91)	
モザイク病 (スイカ)	一部地域を除き平年並～やや少	2(100)	2( 25)	
つる枯病 (ダイコン)	やや少～少	5( 71)	49( 84)	
モザイク病 (ハクサイ)	平年並～やや少	6( 75)	—	
軟腐病	一部地域でやや多の他は平年並以下	5(100)	32( 94)	
白斑病 (キャベツ)	平年並	6(120)	33( 79)	
黒腐病	一部地域でやや多の他は平年並以下	6( 67)	38( 88)	
コナガ (ネギ)	一部地域でやや多～多	20( 95)	83( 98)	
さび病	夏ネギでは一部地域, 秋冬ネギでは北・東日本の一部でやや多～多	7(140)	39(139)	

病害虫名	概 評	発生面積 (前年比)	延べ防除面積 (前年比)	備 考
(タマネギ)				
べと病	平年並～やや少	3(100)	26(76)	
ボトリチス属菌による葉枯病 (野菜共通)	一部地域でやや多の他は平年並	5(100)	—	
疫病 <sup>(2)</sup>	平年並以下、一部でやや多	5(83)	85(85)	中国四国のタマネギ白色疫病
灰色かび病 <sup>(3)</sup>	一部でやや多の他は平年並以下	8(100)	75(72)	冬春及び夏秋トマト
アブラムシ類 <sup>(4)</sup>	一部でやや多	75(101)	343(88)	
ハダニ類 <sup>(5)</sup>	一部でやや多	19(86)	91(96)	夏秋ナス、イチゴで多目
ハスモンヨトウ <sup>(6)</sup>	平年並以下	8(73)	22(69)	イチゴでは一部地域でやや多
ヨトウガ <sup>(7)</sup>	秋冬ハクサイでは一部地域でやや多、その他は平年並以下	14(108)	111(97)	
ミナミキイロアザミウマ <sup>(8)</sup>		15(100)	—	

<sup>(1)</sup>:カンキツ, ナシ, カキ <sup>(2)</sup>:トマト, ピーマン, キュウリ, スイカ, タマネギ <sup>(3)</sup>:トマト, レタス, イチゴ <sup>(4)</sup>:トマト, ナス, ピーマン, キュウリ, スイカ, ダイコン, ハクサイ, ネギ, レタス, ホウレンソウ, サトイモ, イチゴ <sup>(5)</sup>:ナス, スイカ, サトイモ, イチゴ <sup>(6)</sup>:ナス, レタス, サトイモ, イチゴ <sup>(7)</sup>:ハクサイ, キャベツ, ニンジン, ホウレンソウ <sup>(8)</sup>:発生作物(野菜・花き)全部、延防除面積は未調査。

ねぎのネギアザミウマの発生が北陸を中心に「やや多」から「多」。

近年問題となっている野菜、花き類のタバココナジラミ、マメハモグリバエが発生地域、発生作物を拡大し、一部地域では多発した。

### 5 警報・注意報・特殊報の発表状況

病害虫発生予察事業により平成4年1月から9月までに各県から発表された注意報・特殊報は表-2のとおり。

警報の発表は無し。

注意報は、葉いもち5件、穂いもち10件、斑点米カメムシ類11件、果樹のカメムシ類30件等、合計96件が発表された。

特殊報は、普通作でイネ苗立枯病、果樹でミカンのミカンキイロアザミウマ、野菜で野菜、花き類のマメハモグリバエ等、合計32件が発表された。これらのほとんどは当該県初確認による特殊報だが、発生地域拡大や被害作物拡大の特殊報も発表されている。

## III 病害虫防除事業

### 1 ウリミバエ

奄美群島：平成元年10月、奄美群島全域におけるウリミバエ根絶後は、同群島全域において侵入警戒調査を実施するとともに、徳之島、沖永良部島及び与論島において不妊虫放飼による再侵入防除を実施した。

沖縄県：同県唯一のウリミバエ発生地域である八重山群島において、昨年に引き続き毎週9千万頭の不妊虫放飼を実施した。既に根絶を達成している沖縄群島、久米島及び宮古群島等において侵入警戒調査及び不妊虫放飼

による再侵入防除を実施した。

なお、沖縄県全域におけるウリミバエ根絶は来年度中の見込みである。

### 2 ミカンコミバエ

沖縄県：前年に引き続き侵入警戒調査を実施するとともに、八重山群島において誘殺剤散布による再侵入防止防除を実施した。

小笠原諸島：前年に引き続き侵入警戒調査を実施した。

### 3 アフリカマイマイ

奄美、沖縄及び小笠原諸島の被害の著しい野菜圃場などにおいて、マイマイ駆除剤散布による被害軽減防除を実施した。

### 4 フザリウム病

岡山県の一部地域で確認されているウリ科作物のフザリウム病について、薬剤による土壌消毒を実施するとともに、ウリ科作物の栽培規制などを行った。

### 5 アリモドキゾウムシ

平成2年11月鹿児島県西之表市において発生が確認されたアリモドキゾウムシについては、平成3年2月12日から緊急防除の省令によりアリモドキゾウムシ寄主植物などの移動を禁止するとともに、発生地域において、テックス板の散布、野生寄主植物の除去などを実施した。

### 6 天敵増殖配布

果樹の重要害虫であるイセリアカイガラムシ、ルビローウムシ、ミカントゲコナジラミのそれぞれの天敵であるベダリアテントウムシ、ルビーアカヤドリコバチ、シルベストリコバチの増殖配布を前年に引き続き静岡、岡

表-2 平成4年発生予察情報(警報・注意報・特殊報)の発表状況  
注意報 (平成4年1月1日~9月30日)

		①稲					
		葉いもち	穂いもち	セジロウシ	トビイロウシ	斑点米カメムシ類	その他の病虫害
北海道		8.03					
東北	青森	7.29					7.15 稲こうじ病
	岩手	7.17	8.04				
関東	茨城					7.31	7.15 稲こうじ病
	栃木	7.22				8.05	
北陸	富山					8.10	4.10-苗立枯細菌病
	福井					8.03	
近畿	大阪		7.31				
中国・四国	鳥取					8.10	
	島根					7.31	
	広島		8.25			8.01	
九州	山口		8.07				8.26-紋枯病 6.03-ヒメトビウンカと縞葉枯病
	福岡		8.12			8.17	
	佐賀		8.13				
	長崎		8.06				
九州	熊本		8.24			9.07	
	大分	7.09	8.07			6.09	
	宮崎		8.21			8.27	

		④野菜(花き類を含む)	
北陸	新潟	9.03-アブラナ科野菜のコナガ	
東海	岐阜	7.29-各種野菜, 花のタバココナジラミ	
近畿	奈良	5.07-ナスのミナミキイロアザミウマ, 8.20-トマト, キュウリのカメムシ類	
	和歌山	3.10-キク, トマトのマメハモグリバエ	
中四	愛媛	2.06-タマネギ白色疫病, 9.08-イチゴ炭そ病	
九州	福岡	7.03-野菜, 花き類のマメハモグリバエ	
	佐賀	4.10-タマネギボトリチス葉枯病	
	長崎	7.13-イチゴうどんこ病	
	熊本	3.26-施設野菜の疫病, 葉かび病, べと病, つる枯病, 菌核病	
九州	宮崎	4.02-キュウリ, トマト他の灰色かび病, 葉かび病, 斑点病	
	鹿児島		

		②畑作物(稲を除く普通作)	③果樹(茶を含む)
北海道			6.19-リンゴ黒星病
東北	青森		3.19-りんごのリンゴハダニ, 7.30-リンゴ斑点落葉病
	秋田		3.30-リンゴ腐らん病, 3.30-ナシ輪紋病, 胴枯病, 紅粒がんしゅ病
関東	埼玉		6.19-なし, かんきつ類のカメムシ類
	千葉		6.16-ナシのカメムシ類
北陸	神奈川		7.30-果樹のカメムシ類
	新潟		4.15-ナシ黒斑病
東海	岐阜		8.10-果樹等作物のカメムシ類
	愛知		8.25-カンキツ, カキのカメムシ類
	三重		5.22-果樹類のカメムシ類, 8.04-果樹のカメムシ類
近畿	滋賀		6.16-果樹のカメムシ類, 8.20-果樹のカメムシ類
	京都		7.15-果樹のカメムシ類, 8.27-果樹のカメムシ類
	大阪		6.30-果樹のカメムシ類
	奈良		6.10-カキ, ナシ, モモ等のカメムシ類, 8.20-カキのカメムシ類
	和歌山		6.01-カンキツそばかす病, 7.31-果樹のカメムシ類
中国・四国	鳥取		8.04-果樹のカメムシ類
	島根		7.31-果樹のカメムシ類
	岡山		4.28-モモ灰星病
	広島		4.28-カンキツかいよう病
九州	香川		8.07-果樹のカメムシ類
	愛媛		5.12-モモ, ナシのカメムシ類
	高知		4.30-カンキツ, ナシ, モモ, スモモのカメムシ類
	福岡	3.27-麦類の赤かび病	7.20-果樹のカメムシ類
長崎			3.21-カンキツかいよう病, 5.29-ナシ, カキ, キウイ, モモのカメムシ類, 6.18-カンキツかいよう病
			5.15-ミカン, ピワ, その他のカメムシ類, 5.27-ミカンのアブラムシ類, 6.12-カンキツかいよう病, 8.04-カンキツかいよう病
九州	熊本	3.26-麦類の赤かび病	4.03-カンキツかいよう病, 4.03-カンキツそうか病, 7.06-カンキツかいよう病, 8.07-かんきつ, かきのカメムシ類
	大分		3.04-カンキツかいよう病, 4.13-ナシ黒斑病, 4.13-ナシ黒星病, 4.13-ブドウ黒とう病, 8.28-ブドウべと病
	宮崎		4.28-カンキツかいよう病, そうか病, 5.11-ナシ, モモ, スモモ, カキのカメムシ類, 7.30-果樹のカメムシ類
	鹿児島		5.12-果樹のカメムシ類, 8.04-茶のチャノキイロアザミウマ, 8.21-カンキツ, カキ, ナシのカメムシ類, 9.09-クワのクワシロカイガラムシ

特殊報

		①普通作	②果樹等	③野菜（花き類を含む）
東北	秋田	3.11-イネ苗立枯病初確認		
	山形			9.04-ネギのシロイチモジヨトウ初確認
関東	栃木	5.22-オオムギ縞萎縮病 BaYMU III型系統初確認		3.12-野菜・花き類のママハモグリバエ初確認
	神奈川		6.29-ウメ変葉病多発生	3.30-ミニトマトのママハモグリバエ初確認, 3.30-トマト黒点根腐病初確認
	山梨		9.01-キウイフルーツかい よう病初確認	5.21-ミニトマトのママハモグリバエ初確認
	長野			3.19-トマト萎ちょう病レース J-2 初確認, 5.07-キク・ガーベラのママ ハモグリバエ初確認
静岡		7.21-ミカン,花き類のミカ ンキイロアザミウマ初確 認		
北陸	新潟			8.24-ネギ等のシロイチモジヨトウ初確認
	石川			9.04-グラジオラスのグラジオラスアザミウマ初確認
東海	岐阜			9.22-各種花のミカンキイロアザミウマ初確認
	三重			2.05-野菜・花き類のママハモグリバエ初確認
近畿	奈良			3.02-促成トマトにタバココナジラミ被害作物拡大, 3.02-促成トマトの トマトサビダニ初確認
	和歌山		8.10-温州ミカン等のワタ ミヒゲナガゾウムシ初確認	
中国・四国	島根			7.31-デルフィニュームのシクラメンホコリダニ初確認, 8.24-ナス等の ミナミキイロアザミウマ初確認
	広島			7.10-ガーベラ等のママハモグリバエ初確認
	山口	1.07-カンキツのミカンナ ガタムシ発生地域拡大		
	香川	5.06-みかんのワタミヒゲ ナガゾウムシ初確認		8.19-キクのママハモグリバエ初確認
	愛媛			6.02-トマトのタバココナジラミ初確認, 7.08-パセリうどんこ病初確認 8.20-トマトのトマトサビダニ初確認
九州	福岡			5.08-野菜・花きのママハモグリバエ初確認
	長崎			3.31-ミニトマトのトマトサビダニ初確認 4.01-ミニトマトのママハモグリバエ初確認, 4.01-イチジク株枯病初確認

山、長崎の各県でそれぞれ実施した。

平成4 農業年度農薬出荷状況（推定）

（単位：t,kl,百万円,%）

IV 農林水産航空事業

本年度の農林水産航空事業の農業関係実施面積は、6,051千ha（対前年比97.6%）で、前年度に比べ147千haの減少となった。

本事業の基幹である水稻部門は、本年の病害虫の発生状況に応じて防除回数の見直し等により実施延べ面積の減少がみられ、144千ha、8.9%減の1,479千haとなった。

剤型別、散布方法別には、年々ドリフトの少ない散布剤型への転換が図られており、本年度は液剤の通常散布45.0%、同じく微量散布42.8%、同じく少量散布10.9%、微粒剤散布0.9%、粒剤散布0.5%、の割合となった。

果樹部門は、リンゴの野そ駆除、クリの害虫防除など

用途		3年度出荷 (実績)	平成4年度（推定）	
			出荷	対前年比
殺虫剤	数量	170,414	157,000	92
	金額	139,499	141,000	101
殺菌剤	数量	103,787	96,000	95
	金額	101,768	103,000	101
殺虫殺菌剤	数量	54,998	54,000	99
	金額	24,155	26,000	108
除草剤	数量	133,223	131,000	98
	金額	122,831	127,000	103
その他	数量	30,600	32,000	103
	金額	9,782	11,000	113
合計	数量	493,022	470,000	95
	金額	398,035	408,000	103

5.8千ha (8.6%減)であった。

畑作部門は、クワ・ムギ・ダイズ、イグサなどの害虫防除など26.6千ha (14%減)であった。

畜産部門は、牧野の施肥、衛生害虫のダニ駆除など、3.1千ha (24%減)であった。

ミバエ部門は、前年度並の4,537千ha (0.1%増)であった。

昨年水稻の病虫害防除において実用化された無人ヘリコプターは、本年度水稻18.3千ha、コムギ及びダイズ0.12千ha、計18.5千haの防除実績となり、昨年度の3

倍の実績となった。

## V 農薬の出荷状況

平成4農薬年度(平成3年10月～平成4年9月)における農薬の出荷は、前年度に比べ数量では5%減の470千t・kl、金額では3%増の4,080億円程度と推定される。

水稻用農薬は、病虫害別での特段の動きはなく全般的に減少し、水稻用除草剤についても一発処理剤を除きいずれも減少した。その他では、野菜畑作用農薬の土壌病虫害防除用農薬の微増がみられた。

## 新しく登録された農薬 (4.11.1～4.11.30)

掲載は、種類名、有効成分及び含有量、商品名(登録年月日)、登録番号〔登録業者(会社)名〕、対象作物：対象病虫害：使用時期及び回数などの順。但し、除草剤については適用雑草：使用方法を記載。(…日…回は、収穫何日前何回以内散布の略)(登録番号18210～18231までの22件、有効登録件数は6009件)

なお、アンダーラインのついた種類名は新規化合物で、〔 〕内は試験段階時の薬剤名である。

### 〔殺虫剤〕

#### イミダクロプリド水和剤 (6331 水和剤)

イミダクロプリド 10.0%

アドマイヤー水和剤 (4.11.4)

18211 (日本バイエル), 18212 (クミアイ化学)

りんご：アブラムシ類・キンモンホソガ・ギンモンハモグリガ：21日2回、なし・もも：アブラムシ類：30日2回、ぶどう：チャノキイロアザミウマ・フタテンヒメヨコバイ：30日2回、ばれいしょ：アブラムシ類：14日2回、なす：アブラムシ類・ミナミキイロアザミウマ：前日3回(定植後は2回)

#### イミダクロプリド粒剤 (6331 粒剤)

イミダクロプリド 2.0%

アドマイヤー箱粒剤 (4.11.4)

18213 (日本バイエル), 18214 (八洲化学), 18215 (三笠化学), 18216 (クミアイ化学), 18217 (三共)

稲(箱育苗)：ツマグロヨコバイ・ウンカ類・イネミズウムシ：育苗箱1箱当り50～80g：移植2日前～移植当日：3回以内(本田では2回以内)：本剤の所定量を育苗箱の上から均一に散布、稲(箱育苗)：イネドロオイムシ：育苗箱1箱当り50g：移植2日前～移植当日：3回以内(本田では2回以内)：本剤の所定量を育苗箱の上から均一に散布

#### イミダクロプリド粒剤 (6331 1粒剤)

イミダクロプリド 1%

アドマイヤー1粒剤 (4.11.4)

18218 (日本バイエル), 18219 (八洲化学), 18220 (クミアイ化学)

稲：ツマグロヨコバイ・ウンカ類：80日3回(本田では2回以内)、きゅうり：アブラムシ類・ミナミキイロアザミウマ：定植時：1回：植穴又は株元土壌混和、なす：アブラムシ類・ミナミキイロアザミウマ：定植時：3回以内(定植後は2回以内)：植穴又は株元土壌混和、だいこん：アブラムシ類：播種時：1回：播溝

土壌混和

#### イミダクロプリド粉剤 (6331 粉剤)

イミダクロプリド 0.25%

アドマイヤー粉剤 DL (4.11.4)

18221 (日本バイエル), 18222 (八洲化学), 18223 (クミアイ化学)

稲：ツマグロヨコバイ・ウンカ類：21日3回(本田では2回以内)

#### ダイアジノン・BPMC 粉剤

ダイアジノン 3.0%, BPMC 2.0%

ドッサジノン粉剤 3 DL (4.11.24)

18229 (アグロス)

稲：ツマグロヨコバイ・ウンカ類・ニカメイチュウ・コブノメイガ・イネツトムシ：21日4回

#### PMP 粉剤

PMP 3.0%

PMP 粉剤 3 DL (4.11.24)

18231 (アグロス)

稲：ニカメイチュウ・イネドロオイムシ・イネカラバエ・フタオビコヤガ・イネヒメハモグリバエ：21日3回、大豆：マメシクイガ・カメムシ類：14日3回

### 〔殺菌剤〕

#### フルスルファミド粉剤 (MTS-651)

フルスルファミド 0.30%

ネビジン粉剤 (4.11.4)

18210 (三井東圧)

キャベツ・はくさい・ブロッコリー：根こぶ病：播種又は定植前：1回：全面土壌混和、のぎわな・なばな：根こぶ病：播種又は定植前：1回：作条土壌混和、かぶ：根こぶ病：播種又は定植前：1回：全面土壌混和・作条土壌混和

(25 ページに続く)